

＜第2回長井市スマートシティ推進協議会で発言のあった意見等の実施状況等＞

資料1

No	主な意見	現状
1	デントコーン畑に熊が出没した際に、人力で探すことが非常に大変になっている。サーモカメラを搭載したドローンを活用して、熊がいる場所をピンポイントで特定することができるような取り組みを検討いただきたい。	令和5年7月31日(月)に実施(詳細は資料2で説明)。継続的な実施とドローン操縦者の確保が課題。
2	ドローンの購入や講習の受講の補助率を上げていただくなど、ドローンを手にしやすい環境を作っていただきたい。	ドローンの購入や受講に係る補助金については、本事業で活用しているデジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ・Society5.0型)の対象事業外となるため、他の交付金等を調査したい。ドローンを手にしやすい環境については、引き続き、ドローン活用に係るイベント等を開催し、ドローン普及に努めていきたい。
3	内水からも水位が上がるという状況になる箇所について、カメラや水位の情報を常に取りれるようにして欲しい。業者としても有効に準備もできるので、できるだけホームページでの公開を早く進めて欲しい。	必要な経費の観点からカメラの増台、ホームページへの情報公開について対応ができていない状況。引き続き、経費的な観点も考慮しつつ、検討していきたい。
4	インフラの点検、橋梁点検など5年に1回義務つけられている仕事があり、特殊な車両を使用しなければいけない箇所もある。そのような場面でドローンを活用していくことができればよい。	引き続き、ドローン活用に係るイベント等を開催し、ドローン普及に努めていきたい。
5	列車にGPSを組み込み、どこにいるかという情報があると、冬期間や大雨のときに運休した際、列車が今どこにいて、いつ駅に来てくれるのかというデータが分かるかと思うので、そういったシステムができればよい。	市営バスについては、道路の混雑状況等、到着時間が遅延する要素が列車と比較して多く、優先的にバスロケーションシステムの検討を進めている。
6	現場対応後、署に帰る途中で退路がなくなってしまったというところも実際あったので、カメラでリアルタイムにその情報が確認できれば、退路や自分の命を守るということもあるので、活用できればよい。	引き続き、ドローンに係るイベント等を開催し、ドローン普及に努めていきたい。
7	店舗の購買傾向データなどを取得しているということなので、提供いただけるということであれば、経営の向上に資するツールの1つとして、このながいコインを活用できると思うので、ぜひご検討願う。	POSデータを提供いただいた店舗に対しては、ながいコインを活用し購買されたデータを提供することができるが、スマートフォン決済が行われた場合に限るため、引き続き、ながいコインのスマートフォン利用を推進していきたい。
8	データ活用は地域での高齢者見守りでも使えるし、頻繁に自動車が動く時間帯や県外車両が流出、流入する時間帯についても広報啓発や事故防止の活動などに有用に使える。ビッグデータの状態で誰でも触って分析してその時間帯や対象にむかって安全の情報をだすことができるようなデータ活用についても、オープンにして使えるようになればよい。	現在、スマートシティ長井実現事業の各分野取組において、データの収集をしているところであり、引き続き、本事業以外のデータと掛け合わせて有効的なデータ活用とデータのオープン化について検討していきたい。

No	主な意見	現状
9	道の駅でのナンバープレートの分析はマーケティングでの活用として、今後は観光の政策とか誘致活動などに活かせるのではないか。	車両のナンバープレート分析について、今年度は道の駅川のみならず長井に加え、つつじ公園(白つつじまつり期間中)、あやめまつり(あやめまつり期間中)、長井ダム展望所で実施している。昨年度以上のデータ量になるかと思うので、観光施策への反映等に活用できないか検討していきたい。
10	市民にデータがこのように活用できるということを、物理的な媒体でも説明いただくことで、市民の方にも浸透できれば、こういう利点がある、こういうことを市民としても知ることができるというように繋がっていくかと思う。	現在、スマートシティ長井実現事業の各分野取組において、データの収集をしているところであり、引き続き、本事業以外のデータと掛け合わせて有効的なデータ活用とデータのオープン化について検討していきたい。
11	例えばバスの乗車データを分析していただき、金曜日はある方面が多いということであれば、そちらの方に向かう車両を多くするなど対応していただければと思う。長井市民の方々の中でもお年寄りの方にはまだまだPR不足だと思う。	9月市議会にて提案しているバス路線改正(案)については本事業で収集したデータを反映した路線改正を提案しているところ。引き続き、市広報媒体を最大限活用するとともに、関係各所と連携してPRに務めていきたい。
12	高齢者に多く宣伝していただければありがたい。高齢者の方はいろいろPRすればスマートフォンを持つのではないかと思うが、使いこなせないとダメなので、講習などを積極的にして行ってほしい。	高齢者デジタル教室の回数の増加等を検討していきたい。
13	老人保健施設で新型コロナのクラスターが発生し、通所リハビリセンターを休止せざるを得ない状況が起きた。こうしたときにデジタル技術を活用して非接触のサービスを提供できるような検討をこの協議会の中でしていただきたい。例えば、eスポーツを活用するなどの方策をこれから検討していただきたい。	eスポーツの活用については、市内各所で拡大していると認識しており、健康づくり等への活用を引き続き検討していきたい。
14	各コミセンやシルバー人材センターでスマホ教室が開催されていて、大変いいことだと思い、申し込みをしたが満杯だった。興味はあるがどうしたらいいかわからないということで、このような教室の回数を増やしていただきたい。 野川まなび館で野外eスポーツが開催されていて、大変好評だったので、もしもそういうことができるのであれば、各地区で行うようなことができればよい。	高齢者デジタル教室の回数の増加等を検討して参りたい。 eスポーツの活用については、市内各所で拡大していると認識しており、健康づくり等への活用を引き続き検討していきたい。
15	いろいろなデータを重ね合わせることで、子供が安全安心な環境の中で生活ができる。有害鳥獣と河川の状況が活用されているが、例えば、火災発生や不審者の出没、交通事故がマップ上に表示されることで、自分の子どもがどういった状況にあり、危機を感じさせるようなあり方とか対応が見えてくるものがあるのかと思う。 また、校外学習のときに臨時的に持たせるようなことが可能であれば、子どもの活動の範囲が分かたり、設定された時間に子どもたちが今どこにいるのか把握できたりすることも考えられる。	本事業以外に関係各所からデータ提供を受けることができれば、さらによりデータ分析につながるため、引き続き、データの収集と分析を進めていきたい。 子ども見守り端末の臨時的利用については、端末の設定もあり、難しい状況でもあるが、機能強化等を相談の上、検討していきたい。